

平成 16 年度 第 1 回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成 16 年 5 月 20 日 18:30～20:00
市民活動サポートセンター

出席委員 13 名……柴崎、多田、新井、石塚、伊藤、江口、佐藤、四分一、田中、細川、松澤、水谷、横山
事務局 4 名……YMCAよこすかコミュニティサポート 高村、神山 市民生活課 小座野、小番

1 報告事項

次第に沿って報告を行った。

2 審議事項

(1) 市民公益活動団体、(2)夏の市民活動体験フェアについて、提案どおり承認した。

[意見概要]

議事録について

(松澤委員)

DVD レコーダーについての利用状況はどうか。

(事務局)

使用説明会では情報ボランティアの参加があった。利用開始日から利用者があり、好評である。

利用状況について

(松澤委員)

分野別利用団体数のうち、その他の団体の利用数が多いのはなぜか。データとして信用できないのではないか。

(事務局)

利用票に利用団体の分野を記入するようになっているが、利用者の申告どおりとしている。また、事務局側が分野を分類できない団体についても、その他の団体として便宜上、集計している。

平成 16 年度年間予定と平成 16 年度予算について

(柴崎委員)

のたろんフェアについて、事務局側から何かあるか。

(事務局)

今年度も実行委員会を組織して企画運営を考えている。最終的な日程については、ドブ板バザールとの日程調整の問題もあり、実行委員会で決めていきたい。

(横山委員)

前回、ドブ板バザールと開催日がずれたが、多数の来場があった。フェアとして定着してきたので、ドブ板バザールの時期に左右されなくても来場を見込めるのではないか。

(江口委員)

主な行事予定に関連して、市民協働についてもっとわかりやすく PR できる方法はないか。市民の中には、市民協働のイメージがわからないという声や、市の職員が市民協働をどうとらえているのか見えてこないという不評の声もある。自分自身も具体的に説明を要求されたときに、悩む部分がある。何か見えやすい形で PR してほしい。

(事務局)

市としては、市民協働推進条例にもとづいて、市と市民が対等の立場のパートナーとしてまちづくりに取り組むとして市民協働を進めている。個別の対応が見えてこないというのは、市としての悩みであるが、行政と市民とが役割分担をしながら進めている。たとえば、出前トーク等を利用して市の事業に、計画、実施、検証という段階すべてに市民に参加してもらうような取り組みもある。市民協働に対する姿勢は、市職員の中に温度差があるのと同様に市民の中でも温度差があり、これを解決して市民協働を進めていくのが、市と市民両方の課題であると考えている。

(田中委員)

出前トークはよく利用しているし、市からの声かけもあるのでありがたい。

(新井委員)

運営委員は、市民協働推進セミナーに是非参加するとよいと思う。目に見えての市民協働というのは定義しづらいが、少しずつ変わってきている。のたろんフェアでも企業の参加が出てきた。わかるための努力は、市民と行政と双方で行わないといけないと思う。ある意味では、自分が活動していることが市民協働だと思えばそうだと思う。

(柴崎委員)

サポートセンター運営委員会自体が、市民協働のひとつの形ではないか。

(横山委員)

定義づけを無理にする必要はないのでは。市民と行政と一緒に話し合うことから始まり、自分たちでもできることを始めていくことだと思う。運営委員会に参加している方たちからも口コミでPRして行ってほしい。目に見えた形になっていくのは、まだ先のことだと思う。

(松澤委員)

市民協働という言葉が新しいのではないか。ボランティア活動とどう違うのか、わかりづらいところもある。行政とタイアップしているものを全て市民活動としてあげている感じもある。もっと市民協働についてのPRをして、市民協働とは何であるかわかる努力をしてほしい。

おきびき事件とその後の対応について

(事務局)

4月13日(火)にパソコンルームのわきで、情報ボランティアがかばんを置き引きされた。金額的な被害はなく、かばんはその後見つかった。警察に通報した際、建物周辺にスリ、万引きが多いので注意するようという連絡を受けた。人の出入りが激しいゴールデンウィークまで、センター内に張り紙等で注意を呼びかけたほか、現在も、なるべく利用者へ注意の声かけを行っている。今後も、3～4ヶ月に1回程度、張り紙を掲示して注意を呼びかけていく。

(多田委員)

サポートセンターは家庭的な雰囲気があって、持ち物についての意識が薄くなってしまう。持ち物をおいたまま席を離れてしまう利用者も多い。自分の持ち物に注意しましょうという連絡を所属団体のメンバーにも伝えていきたい。

市民公益活動団体について

(新井委員)

番号111の「関東フォーラム2003 in よこすか実行委員会」は終了しているのではないか。

(事務局)

4月末日時点の登録団体の情報を出している。5月に入った時点で登録を削除している。

(水谷委員)

番号368の「ユキエ上映実行委員会」は、映画の上映を目的とした開催期限が決まっている団体に

思えるが、そういった団体を登録してよいのか。自分としては、実行委員会というのは企画の段階から始めてずっと活動を継続していくイメージがある。

(松澤委員)

ボランティアを含めてさまざまな人が集まっている実行委員会で、チケット販売を目的としたものではない。企画をたてながら、レターケースを利用して、参加しているボランティアグループの拠点として登録している。

(事務局)

これまでもこの種の実行委員会の登録を受け付けてきた。企画内容や開催日が決まっても、実行委員会として動いている場合もある。映画上映を通じた啓発を目的とした非営利活動なので受付時に登録しても問題ないと判断した。

(柴崎委員)

実行委員会といってもいろいろある。実行委員会の名称にこだわることはないと思う。

(多田委員)

のたろんフェアも実行委員会でやっている。チケット販売が目的ではなく、実行委員会の活動の拠点として登録しているのならよいのではないかと。

(石塚委員)

コンサートを開催する団体を主催しているが、ポスター掲示の申し込みのときにサポートセンターの説明を聞いて、自分たちの会が登録できる団体であることを知り、登録を機会に公益活動団体であることを自覚した。受付の説明は、公益活動団体についての認識やPRについての機会を提供していると思う。

(事務局)

平成15年度第2回運営委員会で、町内会・自治会、子ども会、PTAの地縁団体は登録対象外であるが公益活動団体と認め、予約利用を可能としたが、今回次のことを確認したい。市外の町内会等の地縁団体については、横須賀市民を優先する観点から予約利用を受け付けない。ただし、一般的な利用を妨げるものではない。また、市内の体育振興会について、教育委員会スポーツ課が所管する学区ごとの地縁団体として登録の対象外とするが、予約利用を受け付ける。

(各委員)

趣旨のとおりでよい。

夏の市民活動体験スタンプラリーについて

(事務局)

資料6の企画(案)に沿って、準備を進めている。講師については、本人の了解はもらったが、諸事情により変更の可能性もある。

(新井委員)

運営方法にある「HONCHOすかっ子カーニバル」とは何か?

(事務局)

開国祭にあわせて本町地区でイベントを立ち上げようという、市民団体による企画である。アーチスト委員会、本町商店会、ショッパーズプラザダイエーの商店等を中心とした実行委員会があり、今回、サポートセンターとして実行委員会に参加した。

その他

(事務局)

7月13日(火)に行われるサポートセンター指定管理者選考会で、運営委員会の中から選考委員

を2名出すことについては昨年度の運営委員会の中で了解をいただいているが、委員長と委員長職務代理にお願いしたい。

― 拍手をもって承認 ―

(事務局)

市民協働推進補助金の公開プレゼンテーションが5月30日(日)に、サポートセンター指定管理者の公開プレゼンテーションが7月13日(火)にあるので、ぜひ傍聴に参加してほしい。

プロジェクター、ワイヤレスアンプ、メガホンをサポートセンター備品として購入した。現在、館外での利用も考えて貸し出し要領を策定中である。貸し出し開始日は現在のところ未定であるが、準備が整い次第、周知を行って貸し出しを始めたい。

以上